

令和6年度 第1回 川崎市社会教育委員会議 青少年科学館専門部会議事録

日時 令和6年6月28日(金) 14:00~15:20

会場 川崎市青少年科学館(かわさき宙と緑の科学館) 自然学習棟2階学習室

出席者(敬称略)

- (1) 委員 (公募市民) 南條邦子(副部長)、間渕秀和
(学識経験者) 佐藤武宏、山岡均、常喜豊、栗芝正臣
(家庭教育関係) 眞壁総子(部長)
- (2) 事務局 久保館長、弘田、高中、清水、渡邊(司会進行)、内藤、齋藤、服部(記録)
上田(生田緑地共同事業体)
- (3) 傍聴者0人

1 開会(渡邊)

事務局より開会告知、会議の成立、傍聴者受入(定員5名)、記録(録音及び筆記)作成及び会議記録公開について周知(傍聴者なし)。

2 委嘱状の交付(渡邊)

委嘱状を机上配布の旨を案内

任期: 令和6年5月1日から令和8年4月30日まで

3 館長挨拶(久保館長)

- ・令和6年度第1回青少年科学館専門部会に御出席いただき、ありがとうございます。
- ・この専門部会は、平成28年度から川崎市社会教育委員会議の組織に位置付けられ、所掌事務は、「科学館の運営に関し意見を述べるとともに、事業評価を行う。」ことです。今年度から新たな2年間の任期のもと、引き続き、当館の充実・発展に向けて、御指導、御支援をいただけますよう、よろしく願い申し上げます。
- ・「令和5年度かわさき市民アンケート」の報告書が4月2日に公表され、質問の中に、文化施設の認知・利用状況という項目があり、当該施設の名前も場所も知らないと回答した人の割合について、藤子・F・不二雄ミュージアムが14.4%、岡本太郎美術館は26.9%、日本民家園は39%となっているところ、当館にいたっては60.1%、つまりアンケートに回答した1,500人のうち、6割以上の市民が当館を全く知らないと回答しています。市の施設でありながら、一部の市民の利用に留まっているという実態が明らかになりました。
- ・当館での事業・イベントに関する報道機関への情報提供については、令和4年度は1件だったところ、昨年度は13件に増やし、いくつもの媒体に取り上げられ、一定の評価をしているが、ただ広報するだけでは効果は限定的で、人が来るのを待っているだけではいけないとの思いを強くしています。
- ・ここ数年、毎年1月末頃、川崎臨海部にある川崎キングスカイフロント東急レイホテルで、当館の職員による星空観望会を実施していますが、大変な数の応募者があり、特に天文分野においては川崎市全体でも高いニーズがあることがうかがえます。今年の2月には、同じく

川崎駅近辺にある東海道かわさき宿交流館で、約1か月に渡ってプラネタリウム100周年に関する企画展を実施するなど、これからは積極的に外へ出ていく必要を感じております。

- ・また、今年の5月10日の地質の日を記念して、ながらく収蔵庫に保管していた「オシ沼切通し多摩ローム層模式露頭剥ぎ取り標本」を、展示時間はわずか2時間でしたが、約500人もの方々に観覧いただくことができました。
- ・当館の職員は大変少なく、事業の実態はたくさんの市民ボランティアに支えられて運営していることも事実で、事業を効率的に進めながら、これからも子どもから大人まで、自然科学への興味・関心を育んでいきたいと考えています。
- ・特に今年は川崎市制100周年という記念の年で、当館を知って、関わって、好きになってもらい、川崎市民でよかったという思いを掘り起こしていきたいと考えております。
- ・60年以上にわたり、科学技術のすごさ・おもしろさを楽しく伝え、企業の最先端技術が生み出す豊かな社会を描き出してきた東芝未来科学館が、明日の29日をもって、一般公開を終了することとなりました。
- ・世の中は大変目まぐるしく動いており、社会情勢も様々に変化しておりまして、博物館に求められる役割、ニーズに応じて、当館も運営していく必要があります。当館は公立の施設ではありますが、やはり毎年同じことをやっているだけでは成長がストップしてしまいますし、いつまでも営業ができるとも限りません。常に機会をうかがいつつ、付加価値を付けながら、さらにより多くの方々に親しまれ愛される科学館として、川崎の自然・天文・科学の普及と発展に努め、地域の多様な主体と連携し、地域の活力の向上に寄与できるよう、魅力ある科学館づくりを推進してまいりたいと考えています。
- ・本日の会議においても、委員の皆様から様々な御指導・御助言を賜りますようお願いいたします。

4 委員・事務局職員自己紹介

5 部会長・副部会長選出

部会長に眞壁委員、副部会長に南條委員を選出

6 資料確認（渡邊）

7 議題

議事進行（眞壁部会長）

次第の6 議題 令和6年度予算・事業計画について

(1)「1 事業内容と予算」について事務局より説明

渡邊：事業名及び事業内容と、今年度、前年度予算額の増減を示している。

- ・「青少年科学館運営管理事業費」博物館としての事業に関する諸経費
主なものは7月3日に発行される新札対応の釣銭機の購入に関する備品費の増。
- ・「青少年科学館指定管理経費」昨年度から第3期指定管理期間が始まっており、前年と同額。
- ・「メガスター運営経費」約300万円の増。あらたなフュージョン番組制作と保守委託料の減額

等と相殺。

- ・「ホトケドジョウ人工飼育事業費」横ばいで推移。
- ・全体として、指定管理料を含め、約1億4150万円が当館の今年度当初予算。

【質疑応答】

質問なし

(2)「2 事業計画 (1)収集保存事業」について事務局より説明

【自然分野】 高中

- ・「収蔵資料の収集・分類・整理（台帳化）」

昆虫資料を中心に新規資料の作製を進める。また、収蔵庫にある既存の昆虫標本のうち未登録資料の整理・登録（電子台帳化）として1,000点を目標に進める。5月末時点で、新規資料として昆虫資料99点を採集。

- ・「GBIF等国内外機関への資料情報の提供」

「サイエンスミュージアムネット（S-Net）」「地球規模生物多様性情報機構（GBIF）」への資料データを提供することで国内外への収蔵資料情報を公開。本年度は、植物標本等、資料1,150点の提供を予定。

【天文分野】 弘田

- ・「プラネタリウム番組のアーカイブ化」

毎月行っている一般向け番組制作の際に収集した資料、画像、動画等の番組素材やプログラム等のアーカイブ化。資料のデータベース化について、他館の事例を調査するなどデータベースの構築と公開に向けた検討。

- ・「天文資料の整理保存」

故富田氏、故箕輪氏から寄贈された天文資料を整理保存し、目録を作成。番組アーカイブについては統一したフォーマットを作成してアーカイブの目録を作成。富田資料等については、紙資料のデジタル化と目録作成を進めている。

【科学教育分野】 清水

- ・「科学実験についての資料収集と保存・管理」

科学実験教室等で提出される計画書・報告書の管理及び実践事例集の作成を継続し、科学市民団体と取組や成果の共有。館内視聴やSNS活用を踏まえて、科学工作を紹介する動画の制作。

実施状況として、計画書・報告書を開催の都度、管理・集約しているほか、科学工作を紹介する10分程度の動画を編集し、次の素材となる動画を制作中。

【質疑応答】

山岡委員 プラネタリウム番組のアーカイブ化や整理した資料をどのように活用するか。

弘田 番組アーカイブについては、今後の番組制作に活用する。資料についても展示や番組制作等に活用していく。

栗芝委員 自然分野での昆虫標本資料の収集指針は何か。

高中 昨年度は生田緑地内を巡回して確認できたものを採集している。今年度はその中でカメムシ相に注目して採集したい。

(3)「2 事業計画 (2)展示事業」について事務局より説明

【自然分野】 高中

・「生田緑地の自然情報の発信」

生田緑地における自然について、受付横の生田緑地マップや SNS などを利用してリアルタイムな情報発信を実施。受付横の生田緑地マップは2週間に1回程度、SNSは5月末時点で8回更新。

・「新たな自然史資料による常設展示の更新」

生田緑地の四季だより、ピックアップテーブルで新たな標本・キャプションによる展示更新を実施。5月末時点で、四季だよりを年4回中1回更新、ピックアップテーブルを年11回中2回更新。

【天文分野】 弘田

天文の展示事業について資料の1から6まではプラネタリウムに関するものである。

・「プラネタリウム一般投影」

職員の自主制作により1か月ごとにテーマを変えて投影。

・「子ども向け投影」

これまでに制作した番組を約2か月ごとに入れ替えて投影。今年度中に子ども向け新番組を1本制作する予定。

・「星空ゆうゆう散歩」

平日午後にシニア向け投影として実施しており、元職員の國司眞氏を講師に迎えて毎月開催。

・「ベビー&キッズアワー」

昨年度再開し、祝日や学校長期休業期間等を除いた第1木曜日、第3水曜日に開催する。

・「プラネタリウム学習投影」

小中高等学校それぞれの学習指導要領に沿った投影。幼稚園・保育園等を対象とした投影も実施。

・「星空自由空間」

平日の一般団体による貸切利用として受入れるもの。貸切になることのメリットを活かし、投影内容等について利用者の希望に応じて対応。

・「天文関連展示」

常設展示の他、プラネタリウム番組やイベントに関連した写真などのパネル展示を行う。

【科学教育分野】 清水

・「市民協働の科学工作展示」

館内イベント等で取り組んだ科学工作物や原理をパネル展示や映像資料として公開していく。実施状況として、市民団体との協働にて展示内容の更新準備中。スマートフォンで視聴できるAR展示を継続し、デジタルサイネージを活用した工作動画などの映像資料を新たに展示。

【質疑応答】

栗芝委員 生田緑地の自然情報について、SNSを活用してリアルタイムな情報発信を行うとのことだが、昨年度、いくつか別のチャンネルを増やしてみてもどうかとの提案をしたが、計画はあるのか。

高中 自然分野に限らず、館内で新しくSNSを追加できるか検討している。

間瀬委員 フュージョン新番組の制作はいつから行うのか。

弘田 今年度後半に制作して、3月の投影を予定して進めている。

久保館長 今年度中に制作するよう計画しているが、確実に3月中に投影できるといえるレベルではない。

山岡委員 プラネタリウム学習投影について、利用した学校は毎年同じくらいなのか。増減はあるのか。

弘田 資料が手元にないので詳細な数は答えられないが、毎年同じくらいの学校が利用していて、極端な増減はない。

山岡委員 天文関連展示事業として企画展示があるが、どのような企画展示を考えているのか。

弘田 10月にオーロラパネル展を予定している。

(4)「2 事業計画 (3)調査研究事業」について事務局より説明

【自然分野】 高中

・「市域の生物調査」

生田緑地を中心として、市域における動植物相解明を進めるための生息種の確認調査を行うとともに、モニタリングが可能な分類群については、生息状況把握のための実態調査を実施するので、委託事業として4月から実施中。

・「市民の興味関心を高める調査研究の実施」

外来種のムネアカハラビロカマキリについて、昨年度の幼虫期での採集圧による個体数抑制の効果を検証するために、生息状況の調査を7月から11月までの期間で実施予定。また、新たな調査研究の対象として、生田緑地のカメムシ相について記録する。

【天文分野】 弘田

・「川崎市域の星の見え方調査」

インターネットを通じた市民協働により夏と冬に実施。

・「天体の観測」

太陽望遠鏡での白色光及びH α 光による観測のほか、アストロテラスや天体観測室の望遠鏡等を活用した観測を観測条件の良い時に随時行う。

【科学教育分野】 清水

・「市民の興味関心を高める調査研究の実施」

授業活用をねらった教材研究を進める。現在は地層学習のデジタル教材の資料収集を進めており、今後は収集した資料をデジタル化していくための基本的なプログラム研究を行っていく。

【質疑応答】

常喜委員 生田緑地のカメムシについて調査研究をするということだが、地域的に重要な対象だということか。

高中 昨年度、生田緑地内を巡回して採集したところ、甲虫目やハチ目が多かった。ハチについては前任者が記録しており甲虫も記録があるので、カメムシを記録することにした。

山岡委員 星の見え方調査に多くの人が参加してもらうための方策は考えているか。

弘田 全家庭に配布される「教育だより かわさき」に掲載することになっている。

久保館長 先ほど説明したように、市内小中学校等の児童・生徒のすべての家庭に配布される「教育

だより「かわさき」に星の見え方調査のコラムを掲載したり、市職員に広報して参加してもらうことも考えている。

山岡委員 天体の観測について、急な情報にも対応できる機動性のある体制はとれるのか。

弘田 今日明日に対応するという事は難しいが、明治大学とも連携して超新星の観測などもしており模索している。

(4)「2 事業計画 (4)教育普及事業」について事務局より説明

【自然分野】 高中

・「生田緑地観察会」

生田緑地の地質、野鳥、植物、昆虫など、四季折々の自然を観察する観察会を、市民団体への委託事業として実施。

・「(自然分野)サイエンス教室(自然分野)」

収蔵庫を見学するバックヤードツアー、学芸員のおしごと体験教室、多摩川での観察会を含む教室等を合わせ 10 回開催予定。学芸員のおしごと体験教室は、今年度から自然分野と天文分野を分けて実施し充実を図る。

・「自然サポーター研修会」

自然分野の調査研究等を行う自然サポーターを養成することを目的とした講座。9月から 10 月にかけて実施予定。

・「自然観察(地層・林)」

学習支援を目的に、小・中・高等学校の依頼に基づき、生田緑地内の地層及び林の観察会を実施。

・「総合的な学習の時間支援」

小・中・高等学校の依頼に基づき、総合的な学習の時間の支援。

【天文分野】 弘田

・「アストロテラス公開」

平日昼間にアストロテラスを公開して太陽の観察を行う。また、月に 2 回程度、日曜日に「昼間の星を見る会」を開催し、太陽と 1 等星や惑星などを観察。

・「アストロテラス夜間一般公開」

これまで、事前申込で実施してきた星を見る夕べを当日自由参加とし、月 2 回程度、土曜日に実施する。

・「特別観望会」

珍しくかつ観察しやすい天文現象等を観察するもの。10 月に接近する紫金山 - アトラス彗星の今後の行動変化に注目して計画する。

・「プラネタリウムワークショップ」

小学生を対象とした年間を通じた 12 回の連続講座。プラネタリウムの番組を子どもたちが番組の企画・制作をし、発表会で投影する教室を実施する。12 名が参加。

・「プラネタリウム発表会」

近隣の学校と連携した事業。日本女子大学附属高等学校と連携し、天文クラブ生徒によるプラネタリウムの番組制作、投影発表会を実施。

- ・「天文講演会／天文講座」

外部から講師を招き、天文等に関する講演会を開催。

- ・「天文サポーター研修会」

新規に天文サポーターを募集し、天文事業ボランティアを育成。定期的に会合を実施し、事業の準備や研修を行う。

- ・「プラネタリウムイベント投影」

プラネタリウムの星空と音楽や映像を楽しむコンサートや映像イベントを開催。

- ・「かわさき星空ウォッチング」

移動天文車アストロカーで市内各地に出向き、天文観察会を依頼を受けて実施。

- ・「サイエンス教室（天文分野）」

アストロテラスの望遠鏡を使った天体観察等を体験する教室や小学生を対象としてプラネタリウムの解説など、天文学芸事業を体験する学芸員のおしごと体験教室等を実施。

【科学教育分野】 清水

- ・「ワクワクドキドキ玉手箱・出前科学実験教室」

小中学校等の依頼に基づき、市民団体を講師として派遣し、実験教材「ワクワクドキドキ玉手箱」を活用して行う科学実験教室を実施。

- ・「サイエンス教室（科学分野）」

様々な年代を対象に、科学の楽しさに触れられる実験や工作等の体験を重視した教室を通年にて実施。

- ・「サイエンスワークショップ（サイエンスショー含む）」

子どもから大人まで楽しめる初歩的な科学講座として、当日参加型の運営方式を継続して実施。また、同じく当日参加型イベントのサイエンスショーは11月・2月に開催予定。

- ・「第19回かわさきサイエンスチャレンジ」

子どもの科学への関心喚起・促進を目的に、高津区溝口のKSP（かながわサイエンスパーク）で8月に開催される「かわさきサイエンスチャレンジ」に参加し、科学実験教室を実施。

- ・「科学サポーター研修会」

科学分野の市民活動に興味をお持ちの方を対象に、科学実験指導者として養成することを目的とした連続講座を7月から開催。

- ・「子ども創意くふう教室」

子どもたち一人ひとりの創造工夫する力を伸ばすことを目的に、5回連続講座を12月から開催予定。

- ・「出前教室」

科学館職員が学校や地域団体から依頼を受けて自然や科学、天文に関するテーマで出前教室を開催。

- ・「学校支援 ゆうゆう広場科学実験教室」

川崎市適応指導教室への学校支援として、ゆうゆう広場に通う小中学生を対象に、科学館や各ゆうゆう広場にて行う科学実験教室を年間24回開催。現在、第1期を6回から開催。

- ・「学校支援 かわさき GIGA スクール構想」

市域の博物館としての特性を活かし、学校の理科教育の充実につながるよう端末を活用したデ

デジタル教材の開発・提供。現在、地層学習に関連したデジタル教材の資料収集中。

・「青少年科学館「紀要」等出版物の刊行」

調査研究等、学芸事業の成果を「紀要第 35 号」に取りまとめているが、今年度から紙媒体での刊行はせず、PDF ファイルを科学館ホームページで公表。

【質疑応答】

常喜委員 自然の総合的な学習の時間支援だが、どのような内容か。

高中 総合的な学習の時間として課題解決型のプログラムで、例えば生き物の名前を調べる課題に対して学芸員が対応して支援するなどしているもの。

常喜委員 場所はどこでやるのか。

高中 基本的には生田緑地内で行う。

佐藤委員 サイエンス教室（自然分野）で「多摩川での観察会」とあるが、具体的にどのような内容か。

高中 単発で3回の観察会で、「多摩川の植物」「多摩川の石」「多摩川の鳥」について講師を依頼して実施する。

山岡委員 サイエンス教室について、自然分野と天文分野ではどのような対象者になっているのか。

高中 自然分野では、主に小学生を対象にしている。野外での観察会については親子での参加としている。

弘田 天文分野では、天体観測を中心とした教室は小学校3年生以上、日時計を作る教室は小学校3年生～6年生、プラネタリウムバックヤードツアーは小学生・中学生向けのものとは大人向けのことをそれぞれ開催している。

山岡委員 アストロテラス夜間一般公開について、参加者が多すぎて収拾がつかないようなことはなかったか。

弘田 今年度になってからは天候がよくなって中止にしたことが多かったのですが、幸か不幸か混乱はなかった。ただ、これから夏に向けて参加者が増えると思われるので、天文サポーターと協力しながら実施していきたい。

山岡委員 特別観望会について、12月8日の土星食では開催するのか。

弘田 今のところ計画はしていない。観測は行うが一般公開はしない。

山岡委員 双眼鏡や肉眼でも観測できるので、検討してほしい。

弘田 観測はしたいと思っており、話題として取り上げるよう準備はしているが一般公開することまでは考えていない。

佐藤委員 紀要を完全に電子化されるとのことだが、J-stageへの登録はされるのか。

高中 J-stageへの登録は検討していない。

真壁部会長 川崎市では、小学校では今年度から紙ベースではなくてデジタルデータで発信するということなので、今年度は移行期間で来年度から本格的に実施されると聞いている。しかし、関心がなければデジタルデータにたどり着けないということがある。情報を発信していることを他のチャンネルで保護者に伝えないと、科学館の情報も伝わらないことがある。対応を考えないといけないのではないか。

久保館長 今までは科学館だよりを全校・全家庭に配布してきたが、科学館としての問題はデジタルデータ化ではなくて、科学館だよりを配布するための仕分け等の作業が、今後、様々な事

業を進めていかなければならない中で職員の業務に大きな負担になっており、効率化しなければならぬ課題があった。その代わり、科学館だよりを A4 判から A3 判見開きにして内容も見やすくした。そこに川崎市としての情報デジタル化が重なることになった。必要があれば「かわさきイベントアプリ」を利用してもらえるよう、学校から保護者にはお願いはしているが、科学館としては実態がわかりづらいので、情報収集しながら判断していきたい。

眞壁部会長 情報の収集が一括でできるような仕組みを作っていくことになるとう説明は受けているので、いろいろな情報に触れられるよう、お願いしたい。

(5)「2 事業計画 (5)ネットワーク事業」について事務局より説明

【展示・企画】清水

・「環境局 企画展」

「川崎の発展と環境の歴史を振り返り未来を考える企画展」を環境局地域環境共創課と連携して開催。7・8月開催予定で、現在準備中。

・「FIELD MUSEUM 展」

専修大学ネットワーク情報学部との共催。学生がデザインした様々な科学分野、生田緑地の体験型教材等を、ワークショップ形式の体験会として令和7年1月に開催予定。

【調査研究・収集保存】高中

・「川崎市域の生物調査」

かわさき自然調査団と共著で調査結果を公表予定。また、「神奈川県植物誌調査会」の川崎ブロック事務局として資料の受入や問合せ等に適宜対応していく。

【学習支援】清水

・「職場体験・職業インタビューの実施」

中・高等学校の依頼に基づき、博物館業務の一部を体験学習させる職場体験や、博物館業務全般についての解説をする職業インタビューを行う。5月末時点で5つの学校団体からの要請を受け、今までに1校実施した。

・「中学校連合文化祭開催への協力」

市内中学生の理科教育を通じた交流の場である連合文化祭に会場協力し、10月にプラネタリウムや展示利用の機会を提供予定。

・「教員・職員等研修の受入れ」

市内外の教員研修や博物館学芸員実習を適宜対応・実施予定。

【地域振興・生田緑地内】弘田

・「図書館、区役所等との共催事業」

プラネタリウムでの読み聞かせ事業、区民祭等、各種イベントの共催、連携の推進。

・「地域の大学、団体等との共催事業」

インターンシップの受入れ等、地域の大学・団体等との連携を適宜対応。

・「生田緑地ミュージアム」

9月に予定されているオータムフェスタの開催にあたり、指定管理者、生田緑地内施設と連携。

・「生田緑地内施設との共催事業」

日本民家園との共催で「七夕」「お月見」のイベントを実施し、プラネタリウムの関連番組の投影等を行う。

・「各施設の回遊性の向上」

全体会議等を通じた緑地内施設と指定管理者との情報共有、横断的広報活動の推進や生田緑地内施設、藤子・F・不二雄ミュージアムとの連携によるスタンプラリーの開催など、施設の回遊性の向上を図る。

【質疑応答】

山岡委員 「環境局 企画展」について、「川崎市域の星の見え方調査」についても環境局と協力して進められればよい。回遊性の向上について、テストで小さなバスを運行していたと思うが、その効果や今後の予定などはあるのか。

渡邊 グリーンスローモビリティという8人乗りの乗り物のことではないかと思う。緑化フェアの期間中だけだが、向ヶ丘遊園駅から生田緑地で運行する。藤子・F・不二雄ミュージアムやバラ園までは折り返しができないなどの問題があるため行かない。

久保館長 ベビー&キッズアワーでは赤ちゃんがいくら騒いでもよいというプラネタリウム投影や、月に1回の指定管理者の自主事業では、子どもの足形・手形をアートにする事業も実施して、様々な形でいろいろな世代の方々に楽しんでいただくようにしていきたい。

南條副部長 図書館・区役所との共催事業について、資料は配布しているのか。

弘田 図書館との連携では、来週、多摩図書館との連携によるお話し会を予定しており、それに合わせて多摩図書館で星に関するコーナーを作ってチラシ等も置いてもらっている。

久保館長 このチラシについては、図書館・区役所などに置いている。

南條副部長 児童館とか国際交流センターなど、子どもを集められそうな施設には置いているのか。

渡邊 先日行った川崎市子ども夢パークに置いてあったが、目立たず最初全く目に入らなかった。デザイン的な問題で置いてあっても目に入らず、気づかれないということもあると思うので、今年度からサイズを大きくしたのに合わせて、デザインも目立つように変更した。

久保館長 伝わるのが大切であるので、どうしたら伝わるかを職員と話し合っている。

南條副部長 広報計画について、以前、Instagramにアプローチするとの提案があったと思うが具体的に進んでいるのか。

渡邊 Instagramについては、昨年度に専門部会で助言をいただいたので、開設に向けて調整していく。

(6)「2 事業計画 (6)管理運営」について事務局より説明

【管理運営】 渡邊

・「管理業務」

今年度は第3期指定管理の2年目。引き続き指定管理者と連携し、円滑な事業運営を行っていくとともに、指定管理者の特色を生かした自主事業の実施について支援していく。

・「危機管理」

館の災害対応マニュアルについて、他施設の取組を参考にしながら精度を高めていく。昨年度に引き続き、当館関係者が参加する防災避難訓練・講習を行い、適切な対応の確保を図る。

・「進行管理」

当部会での御助言を踏まえつつ、事業の実施・進行管理を行っていく。

【科学館の魅力を高めるサービス展開】 渡邊

・「広報計画」

ホームページ、SNSの活用を積極的に行い情報発信していく。昨年度に専門部会で御助言いただいたInstagramの開設に向け、調整していく。

・「魅力を高めるサービス展開」

適切な接遇や職員の専門性を高める研修などによるスキルの底上、カフェ・ショップにおけるサービスの向上、来館者の利便性向上等を図り、館全体の魅力を高めていく。

・「多様な利用者への配慮」

当館の施設設備はバリアフリー対応となっている。外国人来館者に対しては外国語のパンフレットを用意し、利便性の向上を図る。

【質疑応答】

間瀬委員 危機管理について、プラネタリウムで地震がおきるとパニックになりそうだが、特別な取り組みはしているのか。

上田 防災訓練を年2回実施している。市職員と指定管理者が参加して、実際にスタッフが少ない時間も想定して実践的に行っている。

間瀬委員 コンサートなどでは、最初に地震発生時の注意アナウンスがある。プラネタリウムは真っ暗な場所だから最初に注意アナウンスをした方がよい。

上田 地震発生時にはすぐに扉を開けて避難できるように対応する。

久保館長 プラネタリウム投影時に火事が発生したことを想定して、市職員・指定管理者で具体的な避難訓練を実施した。

南條副部長 かわさきFMで市の事業の告知をしているので、そこで科学館の事業を出すことはできないのか。

高中 かわさきFMでは、毎月1度かわさきホットスタジオという番組に自然分野、天文分野が隔月ペースで出演している。

南條副部長 かわさきFMでは市の事業の告知をしているコーナーがあるが、そこには出していないのか。事業の告知ではなく、番組に出ているのか。

高中 番組の中では広報はしている。

南條副部長 経費はかからないので、出せるものなら出した方がよい。

久保館長 イベントごとに情報提供はしていないが、例えば市制100周年のイベント紹介に合わせて情報提供している。

次第の7 報告事項について

(1)今後のスケジュールについてについて事務局より説明

渡邊 「令和6年度 青少年科学館専門部会 今後のスケジュールについて」今年度は、事業の中間報告を行う第2回目を10月下旬から11月上旬ごろに、委員個別の視察を行う第3回目を11月下旬から12月上旬ごろに、事業評価を行う第4回目を3月に開催する予定。時期をみて日程調整をさせていただく。

その他、事務局から連絡事項等（渡邊）

報酬の振込日は7月中旬の予定。今回初めて就任された方や口座変更がある場合、旅費の支払いがある場合は事務局渡邊までお願いしたい。

7 閉会（渡邊）

真壁部会長、議事ありがとうございました。また、委員の皆さまも御助言ありがとうございました。以上を持ちまして、第1回専門部会を閉会いたします。本日はありがとうございました。